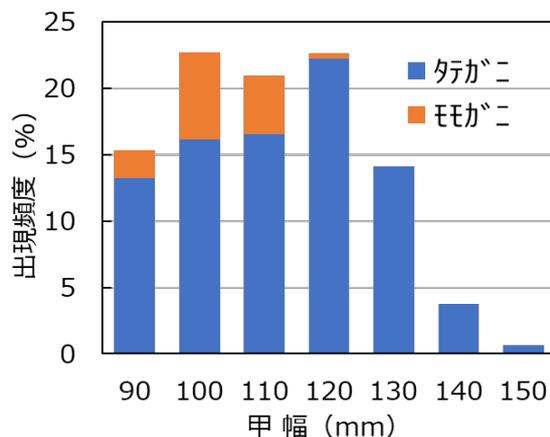


ズワイガニの漁模様

海洋センターでは、府北部の観光業にとって非常に重要なズワイガニの資源状況を把握するため、調査船「平安丸」での試験操業に加え、府内の主要市場である間人^{たいざ}市場に水揚げされた雄ガニの大きさ(甲幅)の測定や数量などを調べています。11月6日の漁解禁から12月末までの甲幅測定の結果、甲幅100-120mm台の小～中サイズが主体となっていました。この中にはモモガニと呼ばれる未成熟ガニが全体の16%を占めており、これらの漁獲を制限することで将来的に市場価値の高いタテガニ(成熟雄)の増加が期待できます。

資源状態を示すひとつの指標として、底曳網漁業による一曳網当り漁獲量(CPUE)があります。雌雄を合わせたCPUEは54.7kg(11月末現在)で、これは昨年比20%増、直近5年平均比36%増となっており、漁期前の試験操業の結果と同様に、資源が増えてきていることが示唆されました。

今後も調査を継続し資源状態を確認することで、効率的な操業や底曳網漁業の経営力向上に役立てていきたいと考えます。



間人市場での雄ガニの甲幅測定(左)と甲幅組成(右)